私の意識改革

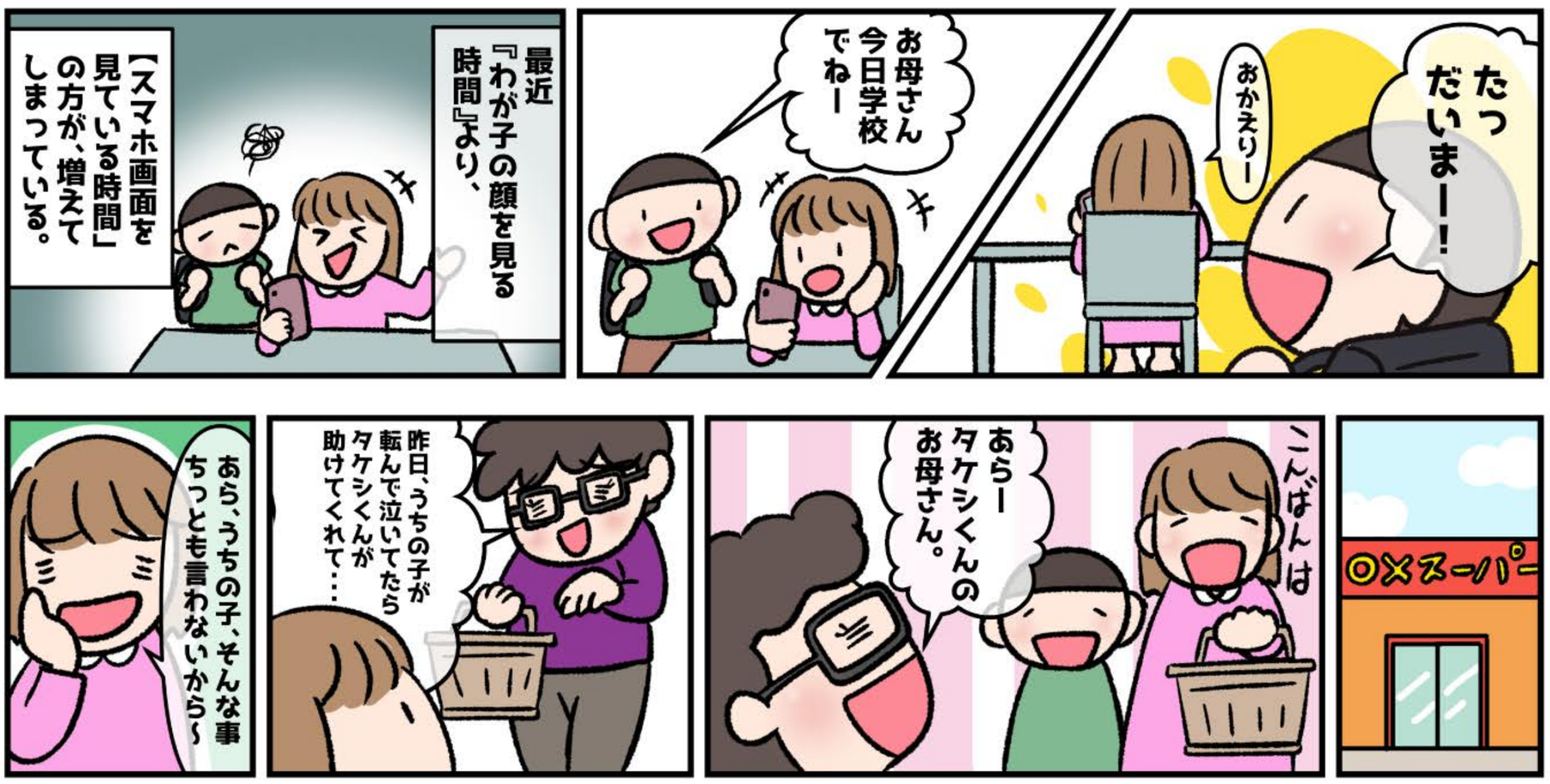
マンガ ／ しまこ

わが家のすこやか日記

作　品

一般部門

最近、気付いたこと。それは、『我が子の顔を見る時間』より、『スマホの画面を見ている時間』の方が、増えてしまっていることです。そのことに気付いて以降、子どもといる時は、子どもとの会話に集中すること、顔を見て接することを意識するようにしています。時代の波には抗えないけれど、意識することで時間の使い方は変えられると思います。今しか見られない子どもたちの表情を見逃さないように、子育てを楽しみたいです。



「わが家のすこやか日記」から学ぶ「夢育※ポイント」

安全安心な人間関係で築かれた家庭は、子どもたちにとって「心の安全基地」となり、非認知能力、夢育のベースにもなります。これを夢育の視点で表現するなら「夢育基地」でしょうか。「わが家のすこやか日記」は、まさに「夢育基地」のエピソード集として親しまれていますが、一方で「そんな余裕はない」「現実はほど遠い」という声も聞こえてきます。そこで、皆さんの「夢育基地」の実現に向けて、少しでもお役に立てればと思い、日記から見える夢育ポイントを紹介します。



夢育アドバイザー（岡山県）　中山　芳一

「私の意識改革」（画：しまこ）

ここが夢育ポイント

子どもから「スマホばかり見ている」と言われると、つい言い訳をしたくなったり、「仕事だから仕方ない」と受け流してしまったりすることもあるかもしれません。だけど、お母さんはそこで終わらせず、自分自身の姿を見つめ直し、「子どもの前ではスマホを触る時間を減らそう」と意識を変えていかれました。その姿勢こそ、とても大切なのだと思います。大人も完璧ではありません。だからこそ、自分の行動を振り返り、必要に応じて変えていこうとする姿は、子どもにとって大きな学びになります。「注意されたことを受け止め、行動を変えていける大人なんだ」という姿を見せることは、言葉以上の教育なのかもしれませんね。そして何より、「あなたとの時間を大事にしたい」というメッセージは、きっと息子さんの心にも温かく届いていることでしょう。

※「夢育」とは、一人ひとりの子どもが、自分の中で「夢」を育みながら、それに挑戦していく経験を通して、「意欲」や「自信」などの「自分を高める力」を養っていく教育。（岡山県教育委員会）